

津波波形と GNSS データのインバージョンによる令和 6 年能登半島地震のすべり分布  
Slip Distribution of the 2024 Noto Peninsula Earthquake Estimated from Tsunami  
Waveforms and GNSS Data

東京大学地震研究所 佐竹健治  
建築研究所国際地震工学センター 藤井雄士郎

- ・令和 6 年能登半島地震(M7.6)の震源域周辺では国土交通省 (MLIT) モデルでは F42, F43 断層が、日本海地震・津波プロジェクトでは NT2~NT9 断層が知られていた。
- ・この地震による津波は、日本海沿岸の波浪計・水位計に加え、沿海州や韓国東岸でも記録された。
- ・観測された津波波形・GNSS データに基づき、上記の断層上のすべり分布を推定したところ、能登半島沖の南傾斜断層 NT4~NT6 は 3~4m, F43 は 2~4m であった。
- ・一方で、佐渡沖の北傾斜断層 NT2~NT3, F42 は地震時にほとんどすべっておらず、今後 M7 クラスの地震によってすべる可能性がある。

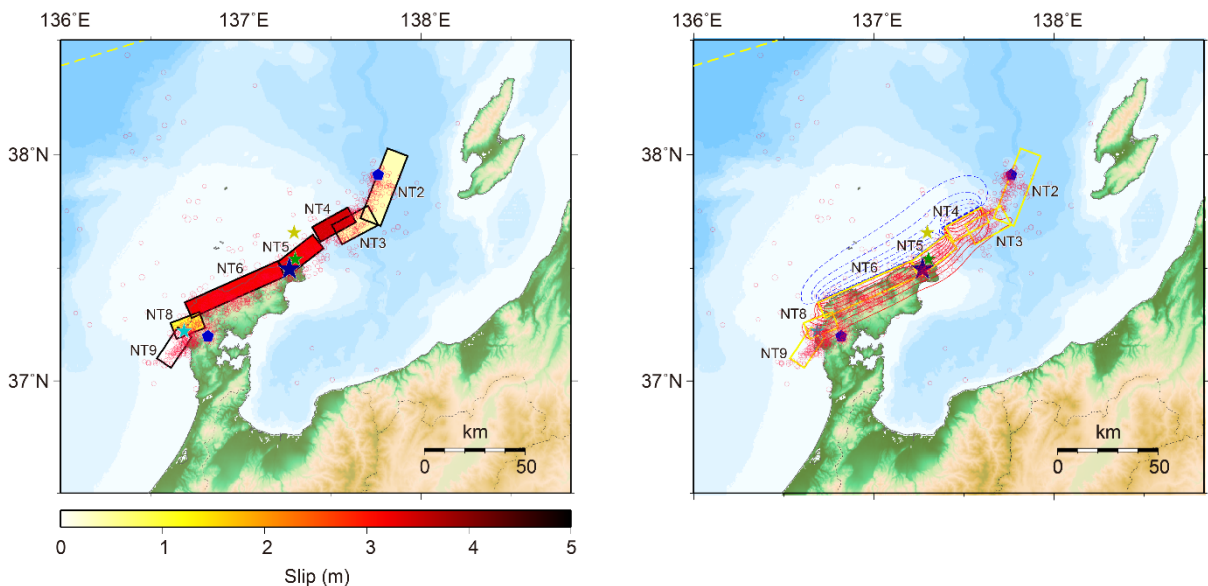


図 (左) 小断層の位置とすべり量. 赤丸は 1 月 1 日~17 日までの M3 以上の震央 (気象庁による). (右) 計算された上下変動量. コンター間隔は隆起 (赤実線) 0.2 m, 沈降 (青破線) 0.1 m.